



今月号の
テーマ

次期「学校における働き方改革プラン」骨子(案)について

現行(第2期)プランの成果と課題

- 現行(第2期)プランの推進により、一定の成果は見られるが、依然として長時間勤務の教職員もおり、中学校及び県立学校(主に、高等学校)において時間外在校等時間が増加傾向(R3→R4)であることから、取組の強化が必要。
- 主な成果
 - ・公立学校への学校業務支援システムの全県導入等、**ICT活用による「学校業務の効率化・省力化」**
 - ・教員業務支援員等の**支援スタッフ**やスクールカウンセラー等の**専門的な知識・経験を有するスタッフの配置促進による時間や心理的負担の軽減**
 - ・**「部活動の在り方に関する方針」**を踏まえた部活動改革 など
- 今後の課題
 - ・ICTの活用による更なる業務改善の推進
 - ・支援スタッフによる業務支援の更なる拡充
 - ・中学校の休日部活動の地域移行 など

	R2	R3	R4	R2比
小学校	45時間	34時間	33時間	△26%
中学校	62時間	45時間	47時間	△25%
県立学校	23時間	25時間	26時間	+11%

国の動向

- R4年には6年ぶりとなる勤務実態調査(文科省)を実施。前回調査(H28)との比較では、教師の時間外勤務の状況は一定程度改善。一方、依然として長時間勤務の教師が多い実態が明らかに。
- 国において、中教審特別部会から「緊急提言」(R5.8月)が発出される。これを受け、「**できることは直ちに行う**」という考え方のもと、複雑化・多様化する課題に適切に対応するため、「来年度から3年間を**集中改革期間**とする」という強いメッセージが文科大臣から発出された。

次期プランについて協議した第3回働き方改革推進チーム会議の会議録についてAIによるテキストマイニングを行ったところ、「ICT」や「部活動」といったワードが多いという分析結果が出ました。学校DXを一層進めるべきといった声が多く上げられているといえます。

これらを踏まえ、**プランを改定**

次期プランの目的

教員がこれまでの働き方を見直すことで、自らの**健康を守る**ことはもとより、**ウェルビーイングを確保**しつつ、新しい知識・技能等を**学び続け**、徳島の未来を担う子供たちに**より良い教育を行う**ことができるようにする。

次期プランの目標

教員の1か月当たりの時間外在校等時間(平均)を令和8年度までに、令和5年度比**「25%以上削減」**を目指す。

具体的には、**1日平均30分短縮!**
(R4ベースで試算)

現行プランの成果と課題を踏まえながら、**好事例の横展開**と**先進事例等を取り入れた新たな施策**を講じ、働き方改革を強力に推進する。

●取組の柱

① タイムマネジメントの徹底

・サービス監督権者による勤務時間管理の徹底 等

② 業務改善の更なる推進

・徹底した業務の精選・見直し

・メンタルヘルスケアの体制強化 等

③ 外部人材の積極的活用

・支援スタッフの配置拡充

・学校運営協議会や地域人材等の活用 等

④ 部活動の適正化

・中学校の休日部活動の地域移行

・「部活動の在り方に関する方針」の遵守 等



取組の柱①～④は働き方改革における**普遍的な取組**です。全体の業務削減はもちろんのこと、教員1人1人の力を最大限に発揮できる**「風通しのよい職場環境づくり」**の実現に向け、先生方に寄り添ったプランにしたいと考えています。

次期プラン骨子(案)について **パブリックコメント** を実施中!!

ご意見の募集期間 R5年12月5日(火)～R6年1月4日(木)

より多くの皆様のご意見をうかがい、反映させることで、よりよいプランにしたいと考えています。ぜひ、あなたのご意見をお聞かせください。https://www.pref.tokushima.lg.jp/public_comment/

